資料2

令和６年度メタバース事業について

令和７年１月14日
福祉子どもみらい局　共生推進本部室　青少年課

【振り返り】令和６年度　メタバース事業概要

１　名称　神奈川県“つながり発見”パーク

２　コンセプト

ひきこもりや孤独・孤立を抱える方、障害者など様々な方が
メタバース空間上で参加できるコンテンツを提供する。

３　事業者・プラットフォーム名

富士ソフト株式会社・FAMcampus（同社オリジナルのプラットフォーム）

【特色】

① コミュニケーションしやすい空間（ひきこもり等の参加支援）

- 2D空間で、参加者が俯瞰しやすく、みんなを感じられる。
- 音声、テキストチャットのほか、Zoomなどのツールを活用できる。

② スマホ、PCで使用できる空間（幅広い人が参加できる）

- シンプルな画面構成で、性能が高くないPCやスマホで参加可能。

③ 不登校支援への活用実績

- 教育や研修活動に特化したオンラインツールとして実績がある。

４　開設期間　2024年９月３日（火）10時～2025年３月21日（金）

【振り返り】メタバース空間について

○ワールド全体を1つのデパートのように構成した空間を構築する。

赤色のフロア・・・メタバースFIKA・ともいきワークショップ（共生推進本部室）

水色のフロア・・・ひきこもり×メタバース事業（青少年課）

●こまりごと相談窓口
専門相談員によるひきこもり等の悩み相談窓口
若者センターの面接相談など現実世界の支援にもつなげる。

●おしゃべりルーム
ユーザー同士が自由に交流できるスペース

●講義イベント
ゲームの歴史など様々なテーマでファシリテーターが講義

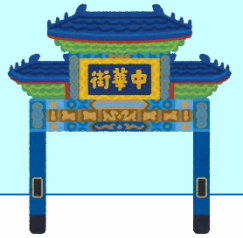
●交流イベント
テーマに応じ、ファシリテーターが交流を促す

●メタバースFiKA（≒茶話会）
孤独感や生きづらさを感じている方を対象に、グループワークを実施

●ともいきワークショップ
障がい者を含む誰もが参加できるゲーム大会などのイベントを実施（リアルとの連動あり）

●メタバース冒険ツアー！
クイズによるオリエンテーリング形式で、メタバース内を探索

●エントランス＆展示
メタバースの操作方法の案内や、神奈川県内の情報を発信



ひきこもり×メタバース事業（令和６年12月６日現在）

参加人数

- 登録者数：514名
- アクセス人数：285名
- アクセス回数：613回
  ※ アクセス人数、アクセス回数は日ごとの集計のため、重複あり。
- 交流イベント参加人数：30名（開催数14回）
- 相談窓口利用者数：１名（相談実施日数３日）

アンケート結果

- 登録者514名の内、ひきこもり当事者127名（約24.7%）※1
- アンケートに回答したひきこもり当事者26名の内、
  社会参加意識が高まったひきこもり当事者23名（約88.5%）※2

※1の抽出方法
→アカウント登録時、直近6か月の外出状況を1つ選択。
① 仕事や学校、人づきあいでほぼ毎日外出していた
② 仕事や学校、人づきあいで週3日程度は外出していた
③ 仕事や学校、人づきあいでときどき外出していた
④ ほとんど家にいたが、自分の趣味に関する用事で外出していた
⑤ ほとんど家にいたが、近所のコンビニなどには出かけていた
⑥ ほとんど家から出なかった
※④～⑥を回答した人を当事者として推計

※2の抽出方法
→空間内に設置したアンケート及び交流イベント、相談終了時のアンケートで、参加した感想に当てはまるものを選択。
① 居心地がよかった
② メタバースが身近なものになった（自分にも関係のあるものだと感じた）
③ 視野が広がり、日常生活（リアル）においても前向きな気持ちになれた
④ 新しい趣味や仕事をやってみたいと思うきっかけになった
⑤ 知らない人同士でも気軽にコミュニケーションがとれた
⑥ 特になし
※⑥を選択した人を除外

ひきこもり×メタバース事業（令和６年12月６日現在）

参加者の感想

●使用ツールとしてClusterのように三次元的な空間を体現したもののほうが落ち着く気がしました

●交流イベントは今回が初めてでしたが、楽しく参加させていただき、時間もあっという間でした。発言しやすい雰囲気で、他の方と交流する事が出来てよかったです。

●今回の交流イベントのテーマが「推し」で、そこからすごく話が広がって楽しかったので、好きなことを語り合う、みたいな場があると面白いかもと思いました。ジャンルは決めない方が、色々な事が知れて楽しいと思います。皆、好きな事について話すときは笑顔になれるなあと思って。

【参考】交流イベントの様子

メタバースＦＩＫＡ・ともいきワークショップ

今冬開催

Kanagawa Prefectural Government